



【感染症だより】

～インフルエンザについて～

ようやくインフルエンザも沈静化してきました。この冬のために製造されたインフルエンザワクチンの型はほぼ適合していたようです。受診された患者さんを診ますとやはり、ワクチン接種されている方のほうが罹患されても軽症、短期で治癒されている印象があります。「ワクチンを接種しても罹ったじゃないか！」と思われる方が多いかと思いますが、罹ってしまうのには理由があります。我が国で一般的に使用されているインフルエンザワクチンは、不活化ワクチンです。そのため、体内の免疫物質であるIgG抗体は上昇しますが、局所免疫と呼ばれるいわゆる入り口の免疫物質であるIgA抗体は上昇しません。欧米で使用されている鼻腔噴霧インフルエンザ弱毒生ワクチンでは、局所免疫であるIgA抗体も上昇するため、インフルエンザの罹患をかなり抑えることが出来ます。このワクチンは、日本でもクリニックによっては個人輸入で接種しているところもあります。近年中に国内でも販売が予定されていますが、このワクチンが認可されれば、より予防効果の高い免疫を得ることが出来ます。副作用には、発熱や鼻汁などの軽いインフルエンザ症状が認められることがあります。また、アスピリン服用中の方、重度の卵白アレルギー、ゼラチンアレルギー、ゲンタマイシン・アルギニンアレルギーの方には接種できません。

～水痘（みずぼうそう）ワクチンについて～

みずぼうそうといえは、子どもの皮膚にブツブツが出来て、1週間くらいで黒いかさぶたになって治るものです。一度罹ったら二度とかからないと思われている方もいますが、実は、水ぼうそうの原因である水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）は、治った後も人間の体の中の知覚神経節という場所に潜伏感染します。何年も経ってから、過労や免疫力が低下したときに潜伏しているウイルスが活性化して帯状疱疹という痛みのある発疹として再発することがあります。現在行われている定期接種は、1歳児に2回となっていますが、この三月から、50歳以上の成人にも帯状疱疹の予防としてご希望により接種できるようになりました。50歳以上でご希望の方は当院でも接種可能ですのでお問合せ下さい。また、お子様で未接種の方も、2歳までは無料で実施可能、3歳以上でも有料ですが実施出来ますのでお問合せ下さい。

表：3月しみず小児科・内科クリニックで検出された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザ B	37
2	インフルエンザ A	32
3	おたふくかぜ	31
4	胃腸炎	24
5	溶連菌	6
6	アデノウイルス	1

文責： 清水マリ子

